

## 完了後の評価個表

整理番号	1
------	---

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道
地域（地区）名	いしかりそらち 石狩空知	事業実施主体	道、市町村、森林組合等
関係市町村	おたるし 小樽市ほか 38 市町村	管理主体	道、市町村、森林組合等
事業実施期間	H23 年度～H29 年度（7 年間）	完了後経過年数	5 年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は、北海道の中央部よりやや西寄りに位置し、北西部は増毛山地と天塩山地、東部は夕張山系、南部は馬追丘陵に囲まれ、西部は日本海に面し、空知管内から石狩管内にかけて縦走する石狩川流域には広大で肥沃な石狩平野が広がっている。</p> <p>本地区の民有林面積は 294 千 ha で、うち人工林面積が 84 千 ha（人工林率 29%）となっている。人工林の樹種別構成は、トドマツが 47%、カラマツが 34% を占め、年齢構成は 11 齢級の 11 千 ha をピークに 8～14 齢級が 71% を占めるなど、森林資源の本格的な利用期を迎えており、増大する利用可能な資源の活用と適正な管理が必要となっている。</p> <p>このため、森林資源の循環利用を推進しつつ森林の有する公益的機能を総合的かつ高度に発揮させるためには、主伐後の植栽や下刈り、間伐等の森林施業が必要となっている。</p> <p>しかしながら本地区では、炭鉱の坑木用に植林された森林が炭鉱閉山により放置されており、高齢級林分の半数以上がこれまで施業経歴のない未施業林分となっているため、森林の有する公益的機能の持続的な発揮に支障を及ぼすことが懸念されている。</p> <p>本事業は、水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能を発揮するために必要な造林や間伐など森林整備を積極的に推進するとともに、これらの効率的な実施及び木材等生産機能の維持増進を図るために必要となる路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>森林整備</td> <td>32,875ha</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 40px;">人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 40px;">保育間伐、間伐、更新伐、森林作業道整備等</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>3,574m</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding-left: 40px;">林道開設</td> </tr> </table> <p>・総事業費            11,829,247 千円（税抜き    11,152,881 千円）</p> <p>（平成 22 年度の評価時点    5,730,537 千円）</p>	森林整備	32,875ha	人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、		保育間伐、間伐、更新伐、森林作業道整備等		路網整備	3,574m	林道開設	
森林整備	32,875ha										
人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、											
保育間伐、間伐、更新伐、森林作業道整備等											
路網整備	3,574m										
林道開設											

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和5年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、費用便益分析で使用する単価の変化や労務単価の上昇、優先度の高い箇所から実行したことに伴う事業量の変動等によるものである。</p> <p>総便益 (B) 111,383,830 千円 (平成22年度の評価時点 59,742,158 千円※)</p> <p>総費用 (C) 27,017,589 千円 (平成22年度の評価時点 11,336,562 千円※)</p> <p>分析結果 (B/C) 4.12 (平成22年度の評価時点 5.26※)</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<p>更新、保育などの施業により 32,875ha の森林が整備され、水源涵養や山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、路網開設によって車両が通行可能となり、森林整備事業地までの到達時間の短縮や資材運搬等が容易になった。</p> <p>さらに、森林整備及び路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域経済の振興に貢献した。</p>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理されており、良好な管理状況にある。</p> <p>整備された路網は、草刈りや路面の整備等を行うなど、適切に維持・管理されている。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>森林整備の実施により健全な森林が育成され、水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能が発揮されている。</p> <p>路網開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、溪流の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林業労働者の減少や高齢化により、林業の現場では効率的で生産性の高い作業システムの導入が求められている中、路網整備により作業現場へのアクセス改善や低密度植栽の推進により森林施業コストの低減を図ることで、森林所有者による森林施業の意欲が徐々に高まってきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上が図られると期待されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>利用期を迎えた森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、長期間放置された森林においては最新の森林情報が把握されていない場合もあることから、リモートセンシング等の ICT 技術を活用して森林情報の精度向上を図り、効率的に森林の状況を把握して森林の施業につなげるなど計画的な森林整備を一層推進する必要がある。</p> <p>地元の意見： (北海道)</p> <p>森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるために、計画的な事業実施が必要である。</p> <p>また、森林施業の集約化など森林施業の低コスト化を促進し、森林所有者の林業経営意欲の向上を図るため、計画的かつ効率的な施行の実施に努める必要がある。</p>

<p>評価結果</p>	<p>必要性： 水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能を持続的に発揮するためには、造林や間伐などの森林整備が必要であるため、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では現地の状況を踏まえた効率的な作業システムにより、また、路網整備では集材効率の悪い箇所无路網を開設することによりコスト縮減が図られており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持増進が図られている。また、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域が一体となった森林づくりの取組が進められており、事業の有効性が認められる。</p>
-------------	--

※平成 22 年度評価時点における数値について、消費税を含んだ数値である。

# 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

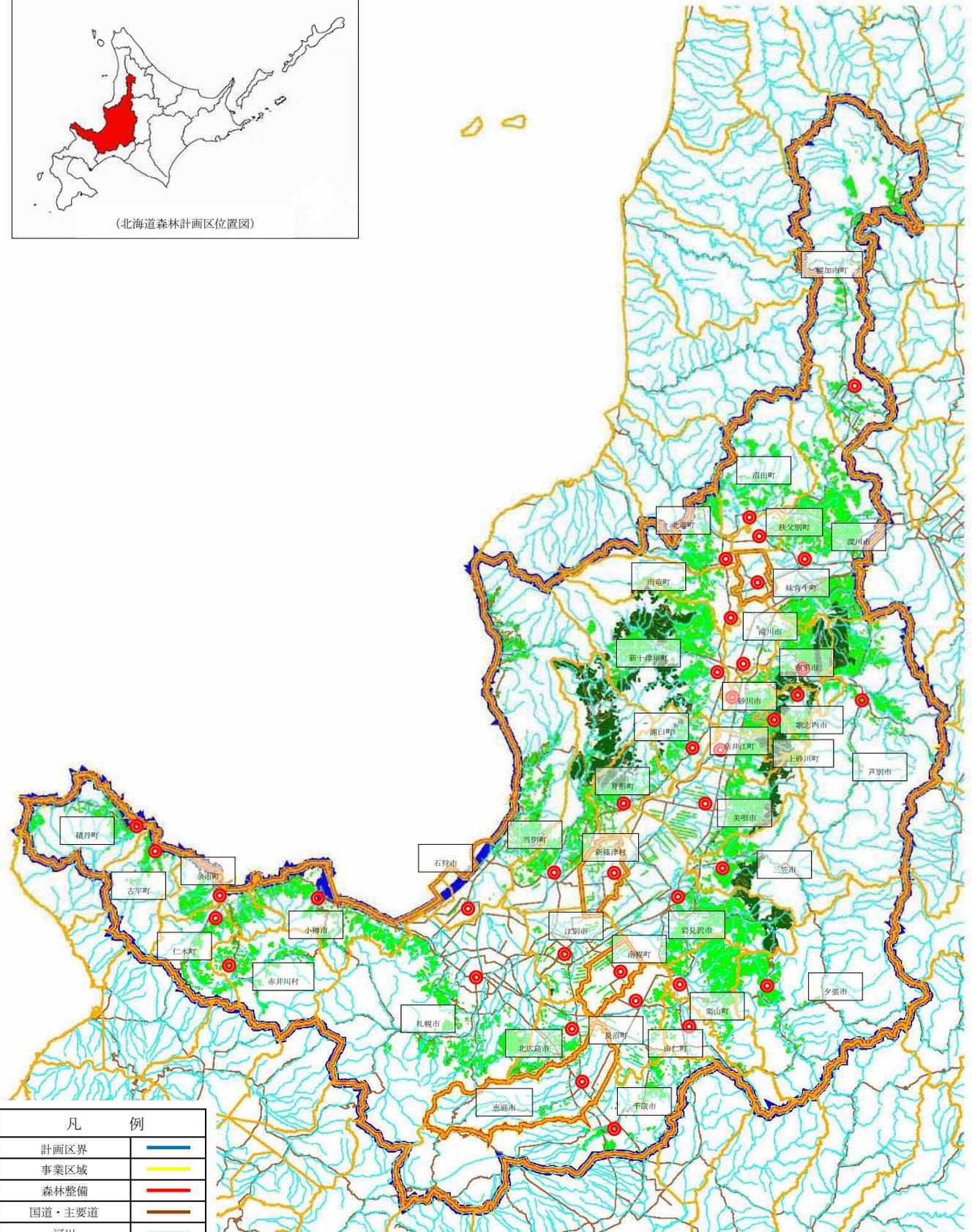
都道府県名：北海道

地域(地区)名：石狩空知

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	24,718,565	
	流域貯水便益	6,593,488	
	水質浄化便益	25,610,611	
山地保全便益	土砂流出防止便益	33,688,146	
環境保全便益	炭素固定便益	9,027,749	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	11,433,254	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	312,017	
総 便 益 (B)		111,383,830	
総 費 用 (C)		27,017,589	
費用便益比	$B \div C = \frac{111,383,830}{27,017,589} = 4.12$		

# 森林環境保全整備事業 石狩空知地域（北海道）



凡 例	
計画区界	— (Blue line)
事業区域	— (Yellow line)
森林整備	— (Red line)
国道・主要道	— (Brown line)
河川	— (Light blue line)
市町村界	— (Orange line)
市町村役場所在地	⊙ (Red circle)
一般民有林 (人工林)	■ (Light green)
道有林 (人工林)	■ (Dark green)